

「北海道の友人」

先月、子ども達の春休みに長年の夢だった家族での北海道スキー旅行に行ってきた高野です。子ども達は初めてのスキーに戸惑いながらも1日半で、少しだけ滑れるようになって満面の笑顔。何とも言えない喜びを味わいました。

そして北海道へ行ったもう一つの理由は、友人 M と会うことでした。北海道出身の彼とは同期入社した東京の会社で出会い、かれこれ30年超の付き合い。訳あって10年ほど前、独身に戻った彼は、失われた子育てをやり直すように、うちの子たちにジギスカンをふるまってくれました。

出会った頃はバブル全盛、「ブラック企業」なんて言葉もなく毎日残業。「24時間働けますか♪」のCMが流行ってた時代。

そんな中、Mはしょっちゅう会社を休んで海外に行くので、「なんで？そんな好き放題やれるんだ？」って、皆から思われていました。(実は当時の M にはスポンサーとなるパトロン社長がいたのです。)

週末は夜の街に繰り出したり、スノボをしに行ったり、鈴鹿まで F1 観に行ったり。今、考えてもよく遊んだ20代でした。寮で隣部屋だった M は夜な夜な僕の部屋に来て、こういうのです。

「いいか、竜馬、若い時しか出来ないことをやろうぜ」

初めて北海道に行ったのも M の悪知恵からでした。同期だけの札幌ツアーを企画したのです。「お前にはどうしても来て欲しいんだよね。」

スキーなんて旅費だけでなく道具代もかかるし、余計な出費が増えると思った私はかたくなに拒否。予約締め切りも過ぎ、M もやっと諦めてくれたかと思いきや、それもつかの間。

「A 子ちゃんが、ツアーに行けなくなったんだよね。ホントはキャンセル料とかかからないんだけどさ、俺が A 子ちゃんからキャンセル料とることにしたのさ。」

「それで？」

「お前がその差額で北海道に行くことになったのさ。お前が行ってくれることで、A 子ちゃんのキャンセル料が減る仕組みだからお前は救世主だ。A 子ちゃんもお前に感謝してるよ。」

そんなこんなで人生初の北海道へ。これがスキーに目覚めた瞬間でした。以来、私は冬の週末をほぼゲレンデで過ごし、5年ほどでスキー検定1級を取得。M も驚くほどの腕前に成長し、スキーが生涯の趣味になったのですから不思議です。

相変わらず「今しかできないことを」と言いながら好き放題の M。普通のサラリーマンなのに今も金回り良く、ポルシェを乗り回す、有言実行の男。

昔は「お前の好き勝手のせいで」、と思うことも沢山ありましたが、今になってみると M の「お陰」で楽しい人生になっている気がします。